

第34回

【テーマ別】

市民と市長のタウンミーティング

～地域で育てよう！武蔵野の子ども～

報告書



○期 日 平成22年10月23日

○会 場 0123 はらっぱ

武 蔵 野 市

ま え が き

武蔵野市では、市民が自らのまちを自らの手で創りあげていく市民自治の基本に立ち、市民と行政が一緒にまちづくりを進めていくプロセスを大切にしたいと考えています。

そのひとつの手法として、市民と行政が「同じ目線」「双方向」で、地域の課題や市政全般について率直に意見交換を行う場として、「市民と市長のタウンミーティング」を開催しています。

この会には、地域のまちづくりの拠点であるコミュニティセンターを会場として、市とコミュニティ協議会が企画・運営方法を協議し、協働して実施する「地域別タウンミーティング」、テーマを設定して、そのテーマの関連団体にご協力をいただきながら実施する「テーマ別タウンミーティング」、そしてテーマを決めずに実施する「青空タウンミーティング」がございます。

平成18年からの2年間で、すべてのコミュニティ協議会との共催により、「地域別タウンミーティング」を計16回開催しました。その後、「商店街の振興」「災害に強いまちづくり」「地域で支えあう福祉のまちづくり」「市民協働で育むまちづくり」「市民とつくる環境にやさしいまちづくり」をテーマとしたタウンミーティングを計7回、地域別の2巡目のタウンミーティングを計7回、屋外での青空タウンミーティングを計3回開催いたしました。

今回は、「地域で育てよう！武蔵野の子ども」をテーマに、NPO法人保育サービスひまわりママとの共催により、「第34回市民と市長のタウンミーティング」を開催しましたので、その結果を報告いたします。

今後も、市内の様々な場所で、タウンミーティングを開催していくことにより、さらに多くの意見交換を行ってまいります。

武蔵野市長

邑上守正

概 要

1. 日 時 平成22年10月23日(土)
午前10時30分～12時
2. 場 所 0123はらっぱ
3. 主 催 武蔵野市
NPO法人保育サービスひまわりママ
協力：武蔵野市子ども協会
4. 参加者数 46人
5. 主催側出席者 市 長 邑上 守正
NPO法人保育サービスひまわりママ 理事長 秋山 優子
企画政策室長 小森 岳史
子ども家庭部長 青木 稔
子ども家庭課長 大杉 洋
保育課長 伊藤 英穂
6. 司 会 NPO法人保育サービスひまわりママ 理事 松田 正恵
企画政策室市民協働担当部長 大杉 由加利
7. テ ー マ 地域で育てよう！武蔵野の子ども

目 次

1. 発言の要旨	1
(1) 開会のあいさつ	1
(2) 市長説明「第三次子どもプラン武蔵野」	3
(3) 「地域で育てよう！武蔵野の子ども」をテーマにした 意見交換(要旨)	5
1. 乳児（多胎児）連れの移動手段、 タウンミーティングのPR、保育園入所について	5
2. 地域での子育て支援の担い手、 子ども施策と高齢者施策の連携について	6
3. レモンキャブの子育て支援への活用、 児童館、子育て支援センター設置について	7
4. 母親の声を聴くことについて	9
5. 子育て支援者への支援、特別支援教育、 不登校児への訪問支援、短時間保育について	10
6. 子育て世代同士がつながる仕組み作りについて	12
7. 一時保育に対する補助、子育て応援券、 子育て世帯への現金給付型支援について	14
8. 集団回収による世代間交流について	14
9. 小中学校の猛暑対策について	15
10. 多胎児の会について	16
11. 子どもの居場所と大人の関わりについて	17
12. ひまわりママへの支援について	18
(4) 閉会のあいさつ	19
2. 当日いただいたご意見と市の回答・対応方針	20
3. アンケートでいただいた感想	32

— 付属資料 —

【当日配布】市長説明資料「第三次子どもプラン武蔵野を策定しました」
—季刊『むさしの』2010年春号より—……………33

第34回「市民と市長のタウンミーティング」ちらし

1. 発言の要旨

(1) 開会のあいさつ

【市長】

皆様、おはようございます。今日はすごくいい天気ですが、行楽日和の中、タウンミーティングにご参加いただきありがとうございます。市民の皆様とさまざまな課題を市長が直接お聞きしお答えしていく意見交換の場として、既に 34 回目を迎えることができました。今までの参加数は 3,000 人弱ですが、必ずお聞きした意見というのは、そのままにしないんだという姿勢を貫いております。これから皆様方にご意見を踏まえて、お答えする話もう 1 回報告書の中でまとめますし、ちょっとお答えできなかった質問についても、その報告書の中できちんと回答を書いて、また後日皆様方にお配りし、また皆様方とのこれからのいろいろな意見交換のきっかけとなればと思っています。



さまざまなタウンミーティングの形態がありますが、基本はコミュニティ協議会と共催で地域の問題について語っていこうというのが主でしたが、その後テーマ別として、環境、防災、商店街の活性化などのテーマについても行ってまいりました。そして、今日は子育てをテーマとして実施することになりました。

この 0123 はらっぱもおかげさまで来年で 10 周年を迎え、多くの皆様方にご利用いただいておりますが、施設を利用されるお母さん方、お父さん方からもさまざまな課題等を時々お聞きいたしますので、今日は子育てを通じて、あるいは子育てに関するさまざまな課題を寄せていただいて、ともに考える集いというふうになっていったらと思っています。

今日は、ご案内のとおり、ひまわりママの皆様方との共催で行うと同時に、この施設の運営をお願いしております子ども協会の協力で行わせていただきます。ぜひ皆様方の活発なご意見をいただきたいというふうに思っています。よろしく申し上げます。

【NPO法人保育サービスひまわりママ 秋山 優子 理事長】



ひまわりママの代表をしております秋山と申します。本日はご参加いただき、どうもありがとうございます。子育てというテーマで武蔵野市のほうから声をかけていただき、タウンミーティング共催ということができて、本当に嬉しく思っております。

まず、特記したいことは、本日のタウンミーティングが託児つきということです。今回子育てということで、初めてタウンミーティングに託児がつけられたということを聞いています。託児にはひまわりママが当たっておりますけれども、子どもの声を聞きながらタウンミーティングをするということも意義があることではないかと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

さて、ひまわりママについて、ご存じではない方もいらっしゃると思うので、少しご説明したいと思います。今から 14 年前に保育サービス講習会という市が主催で行った講習会を修了した者が立ち上げた団体で、その後 NPO 法人となり、武蔵野市のいろいろな委託事業、集団保育ですとか、テンミリオンハウスあおば、それから病後児保育室ラポールといったものも運営させていただけるようになりました。

それ以外に、子ども家庭課から産前・産後支援ヘルプという産前 20 時間、産後 60 時間という出産期のお母様たちを支援するサービス、それと、ひとり親家庭をサービスして、残業で帰りが遅いお母様たち、お父様たちを支援していこうというサービスも行っております。

このような保育サービス、訪問型を主にやっている団体で、施設的なサービスはなかなかできていませんけれども、家庭的なサービスではどこにも負けないという自信を持っております。

それから、今日のテーマの選定ですけれども、「地域で育てよう！武蔵野の子ども」というテーマを掲げさせていただきました。後ほど邑上市長からも子どもプランのご説明があるとは思いますが、待機児童対策の問題や保育園、それから児童館、0123 などの施設面から見た子育て環境はもちろんですけれども、地域の中で、地域の人が地域の子どもを育てていきたいと思いますとの思いから、サブテーマを「より快適な子育て環境について」といたしました。

ひまわりママの活動は発足以来、楽しい子育てを一緒にしましょうと保護者に呼びかけて、子どもと親の両方を支援するという事で、伴走者として地域の子育ての中でご家庭とかかわってまいりました。ただ、共働きのご家庭だけでなく、ご実家が遠いとか、ご両親がご高齢などで家族の協力が得られないご家庭も武蔵野市には多いように思います。地域のかかわりが希薄だと言われて久しいですけれども、地域ぐるみでの子育て家庭への支援について、建設的なご意見がいただけたらとてもうれしいです。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

(2) 市長説明「第三次子どもプラン武蔵野」

※当日配布資料は、33～34ページに掲載しています。

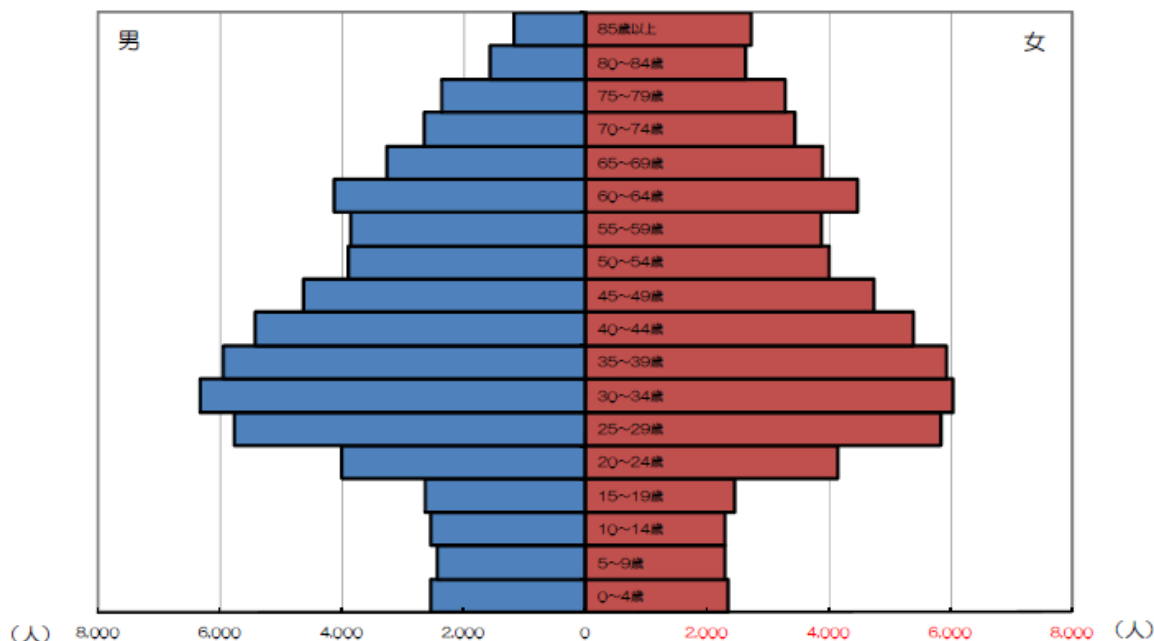
【市長】

まず、武蔵野市の人口は、13万5,000人ですが、実はここ40年ぐらいずっと13万人台というボリュームは変わっていないんです。ところがその構成がかなり変わっていきまして、少子高齢化が顕著でございます。現在、高齢化率、いわゆる65歳以上の人口が20%を超えており、ほぼ全国平均並みです。しかし、都内において全国平均並みというのは極めて高いほうでございます、高齢化が進んでいるまちとご理解いただきたいと思います。

同時に、やはり少子化の流れも進んでおりまして、いわゆる14歳以下の人口が10.8%となっております。かつては、20%ぐらいだったのですが、これはずっと減少しております。年齢構成を示す人口ピラミッドが未広がりになると極めて健全なのですが、本市は、中がぶくっと膨れたつぼ型でございます。子どもたちの学年ごとの人口というのはほぼ900名台から1,000名程度で、その後、20代から30代が結構増えてまいりまして、実は30歳ぐらいの人口が一番多いんです。ちなみに、武蔵野市の市民の平均の年齢が43歳でございます。

私としては、元気な高齢者が増えていただくのは大いに結構だと思うのですが、子どもの数が減っていく、少なくなっていくというのは何か悲しい思いがします。学校などに行きましても、だんだんとクラス数が減ってくるというのはちょっと問題ではないかと、少なくとも今の子ども人口はぜひ維持していきたい。すなわち、毎年1,000名ぐらい子どもたちが誕生しておりますが、これを何とか維持できるようなまちづくりをしていきたい。そのためにはそういう子育てを行っていただく皆様方にとって、この地域は子育てしやすい町だと思えるような、具体的にそんな施策も積み重ねていきたいと思っております。

そこで、「第三次子どもプラン武蔵野」をまとめました。お手元にあるのは、季刊『むさし



<武蔵野市5歳階級人口ピラミッド(平成22年)>

の』という季刊誌の 2010 年春号から抜粋したのですが、武蔵野市にとって子育てに関する、あるいは教育に関する総まとめの計画として位置づけたものです。まず、計画の理念として、すべての子どもたちの健やかな育ちを大切にしようじゃないか。それから、家庭の子育て力を高めることを支援しようじゃないか。また、地域社会全体で子育て支援をしていこうじゃないか。多様な学びの場を通じた体験を重視していこうじゃないか。そんな計画理念のもとに、さまざまな子育て施策、関連施策をこの計画に盛り込んでございます。

その中でも、9 項目の重点的な取り組みということで、相談機能の充実、子ども家庭支援センターの設置、あるいは子育てステーション制度の導入。そういう制度を導入しようじゃないかだとか、あるいは、保育園の待機児が非常に増えている。恒常化している。何とかしなければいけないということで、ここでもさまざまな計画を位置づけてございます。

そして、認可保育所の質を確保するというと同時に、財源は限られておりますので、いかに効率的にさまざまな施策を積み重ねていくかということも取り組んでいこうということでございます。



あとは、西部地域にある子育て支援施設を再編していこうという話。あとは教育に関する話。あるいは子どもたちの知的好奇心を高めるような教育の中身のような話。それから学校を地域で支えていこうといった話。それから地域子ども館あそべえと学童クラブの連携を深めていこうといったような話。さらには、子どもたちを支援するという中で、子育てする中で、ぜひ地域のリーダーとして子どもも活躍してほしいという思いもございますので、そういう子どもたちの育成、青少年の地域のリーダーの育成等々、強化していこうという取り組みを 9 項目の重点的取り組みということで掲げてございます。

いずれにしても、多様な分野、範囲にまたがりまして、子どもに関する施策をきちんと明確化し、その実現に向けて今スタートしたところでございます。計画年を定めてございますので、その中でしっかりと 1 つずつ積み重ねていきたいし、かつこの計画にないからやらないわけではなくて、例えば今日お話しいただいて、そういう課題があったんだということであれば、それはまた市として受けとめて、課題解決に向けた施策をまた考えていきたいというふうに思います。

(2) 当日の意見交換(要旨)

1. 乳児(多胎児)連れの移動手段、タウンミーティングのPR、保育園入所について

【ご意見】

関前に住んでいる。私は1歳4カ月の三つ子の女の子の母親だが、今年度から市でやっている双子、三つ子の会をととてもありがたく思っている。

子どもの遊び場や、そういう機会を作っていただけるのはとても嬉しいが、うちの場合は三つ子という特殊事情から、そこまで行く移動手段がない。普通のタクシーだとバギーが入らないため乗れない。新しいタイプの少し大き目の車種だと乗れると言われ、その車種の手配をお願いしたところ、車種指定の手配はできないと断られた。そうになると、バギーで歩いて移動できる範囲だけに行動範囲が狭まってしまう。

市で行っている車いすでも乗れるタクシーなどを見るが、それなら大きいバギーも乗れるだろうし、もし空いている時間があれば、3人抱えて乗るのは困難なので、チャイルドシートを付けて乳児連れが使えるようにするなど、乳児連れの親が1人で移動する手段まで考えていただけると嬉しい。

また、今回この場に、0123に毎日来ているお母さんたちが全然参加していないのに驚いた。託児つきということをもっとアピールして、今現在、子育てしている私たちの同年代のお母さんたちにもっと来てもらえたら、この会ももっと良くなったと思う。

あとは保育園について相談した時に、私が入れる確率は0%とはっきり言われた。そして、まずは託児付きのところなどで働きなさいと。両親が働いていても、うちの場合は自営なので、マイナス10点、まず入所は無理でしょうと。ということは1人で育てなさいということか。それならば、やはり移動手段まで考えていただきたい。

【市長】

今三つ子ちゃんをお育てになっっていて、時々すれ違ったりすると、あ、頑張っているなというふうに思っています。やはりお子さんを見ると私もすごく嬉しく思っていて、健やかにお育ちのことだと思っています。

移動手段の問題は確かに大変で、1人で3人をとというのはなかなか難しいかと思っています。かといって、今実際にそれに対応するものを用意していないので、1つの考えとして、市の中でも検討したいと思います。

もう1つは民間でどの程度対応ができるか。タクシー会社でも、最近ではワンボックスのタクシーもあるし、そういうものが地域のタクシー会社であるのかどうかを確認してみたいと思います。

一方、お子様用ではないのですが、実はレモンキャブという事業があります。これは、主に体がご不自由な方の移動手段として、車いすも乗せられるような黄色い小さなワゴン車です。利用者も多いのですが、その車両の代替利用とか、そういうことが可能かどうかも含めて、それは課題として考えていきたいと思っています。



<レモンキャブ>

そして、保育園の問題は大変申し訳なく思っています。全般的に今待機児が、9月現在99名出ております。市では昨年認可保育園を1園開設しましたし、それから、今年も認証保育所を増やしています。さらに北町保育園を移転増設することが決まり、そこでも定員増を図ってまいります。さまざまな保育施設を増やして、定員を増やしていますので、こ



れから現状以上にもう少し基準が下がってくるのではないかと考えております。全く入れないということではなくて、それぞれの基準に応じて、順番に優先順位をつけて、それで入っていただいている状況でございますが、そのニーズが大変高まっていると認識していますので、さまざまな保育の充実を図っていきたくと考えています。

2. 地域での子育て支援の担い手、子ども施策と高齢者施策の連携について

【ご意見】

桜堤に住んでいる。今桜野小に2年生と4年生の子どもを2人通わせている。

土日もなく働いている市長や、ひまわりママさんにも子どもが小さいころに大変お世話になって、本当にありがたい存在だと感謝している。

ただやはり、子育てのことに関わっていると、あちこちから担い手がないという悲鳴が上がっている。特に地域の中で一肌脱いでくれる方がなかなかおらず、いつも同じ方がやらなくてはいけないという話をよく聞く。

父母は、子育てをしながら自分達も年をとるので入れ変わっていく。継続的に「ちょっとやってください」と言い続ける人がいないと、担い手はだんだん減っていってしまう。では、それができる人は誰かと言った時に、地域と地域だとなかなか言いづらいので、やはり保育士さんや、先生、学童の指導員、あそべえの館長とか、そういった方々がもう少し父母に対して働きかけができるようなきっかけがあるといいのではないかな。

保育園だとお泊まり保育という、保育士さんと父母が子どもと一緒に泊まりするというイベントがあった。それは子どもにとって良い体験だが、保育士さんと父母も、実はイベントを通じてつながって、その中で、子育ての楽しさを代々伝え、伝わった人たちが次の担い手になるというようなことがあった。こういったことがまた復活できないか。学童のお化け祭についても、復活できればと思う。

あとは、子どもは子ども、お年寄りはお年寄りというのではなくて、両方の施策がもう少しかみ合ってくれるといい。時間に余裕のない子育て世代と、時間的には余裕があるのではないかというお年寄りの方々がもっと連携できるようなことがあっていいと思う。

子ども施策に関しては、学童が学童のことだけ考えるというのではなく、もっと幅の広いことを考えなくてはいけないと思うので、子ども家庭部長と父母との間の対話が直接持てるような場があるとありがたい。

【市長】

部長は今後、地域でいろいろな声を聞く場合に参加してもらえらると思ひますので、よろしくお願ひします。

まさに今日のテーマであります地域で子育てというお話をいただいたんじゃないかと思ひます。ややもすれば今、それぞれの分野でそれぞれ何か子どもに関わっているというのが、全体でつながっていないような気も確かにいたします。それをつなげるのが地域かとも思ひますので、地域の中で横つながりの連携が深まったらよいかと思ひます。

その中で、高齢者と子どものつながりというのも、地域によっては工夫をされているところもござひます。例えば、境南小のふれあいサロンでは、高齢者の皆様と子どもたちが、例えば昼食をともにするとか、昔遊びを教へてもらふとか、一緒に楽しむ、そういう取り組みを行っています。学校、あるいはコミセンによつてもそういう取り組みをされているところもござひます。是非ほかの地域も参考にさせていただければと思ひます。

それから、保育士や幼稚園の先生といった専門職の方々と保護者との交流を通じて、子育て支援のアドバイスをいただくとか、相談に行くとなるとハードルが高くなりますが、そうではなく、通常の触れ合いの中でできないかというお話だと思ひます。おそらく先生方からはやりづらひ面もあるかと思ひますが、課題を感じていらっしゃるのであれば、逆に父母の側から積極的に先生方とちょっと交流したり、懇談をしたり、待つのではなくて、父母からの投げかけというのも大いにさせていただいていいのではないかと思ひます。

それで武蔵野市では、特に保育園も幼稚園も入っていない、そういう母子、親子の皆様方のいろいろな相談をもう少し充実していくために、「第三次子どもプラン武蔵野」の9項目のまず1点目のところに、「子ども家庭支援センターの設置及び登録制による子育てステーション制度の導入」を記しています。特に子育てステーションという、ちょっと新しい事業に取り組んでいきたいと思ひます。これはお子さんが生まれたら、地域の保育園なり、幼稚園なり、そういうところに登録し、随時そこに行くことで、いろいろなアドバイスを受けることができる制度でござひます。その保育園の園児でもない、幼稚園の園児でもないお子さんについて、その専門の機関に行って、さまざまな専門家にいろいろアドバイスをいただき、それをぜひ子育てにも生かしていただければと思ひます。



3. レモンキャブの子育て支援への活用、児童館、子育て支援センター設置について

【ご意見】

吉祥寺東町に住んでいる。私も10年ばかり子育てを地域で支援しているが、その間に感じたことを言ひたい。

私も双子ちゃん、三つ子ちゃんの支援をしたが、やはりそのお母さん達が困っていることの1つが出かけられないということだった。大きなベビーカーで出かけるとエレベータ

ー1つ乗れない。どこに行くにも行かれない。だから、せっかく遊び場開放のひろばをやっている、そこに行けないので、レモンキャブを早急にお母さんたちでも使えるようなシステムにしていきたい。

あとは、急に病気になった場合に、すぐに電話すれば手助けしていただける、利用できる、そういう車があるだけでもお母さんは安心できると思うので、レモンキャブを是非、お年寄りだけではなくて、子育てにも利用して、少し台数を増やして早急にやっていただきたい。タクシー会社と一緒に相談してではなくて、是非行政からやっていただきたい。

それから、児童館について、第三次子どもプランの中に、全市的に展開とあるが、どのように考えているのか。桜堤児童館がなくなって、市内に0123のような児童館をつかっていくのか。なかなか具体的な話が見えてこないなので、ご説明いただきたい。

それで、児童館というか、午前中は子ども、午後は小学生、中学生、夜は高校、大学生、全部利用できる大きな1つの建物を三鷹と共同して、真ん中あたりにつくったらいいと思う。なかなか難しい話だと思うが、財政が苦しいといって建物が建たないなら、市をまたいで子育て支援センターをつくり、1つの場所に行けば全て相談できるといい。

市役所に行って、どこに行ってください、どこに行ってくださいと回されるのでは困るので、1カ所に行けば何事も相談できる、そういうところができるといいと思う。

【市長】

まず、レモンキャブについては、現在利用率が高くて、手一杯の状態です。かつ、先ほど担い手が足りないというお話もいただきましたが、同じようにレモンキャブでも担い手が、大変厳しい状況にもあり、なかなか拡充していくという状況ではないのです。

ただ、レモンキャブも今10年を迎え、やはり過去を振り返ってどうするかと見直さなければいけないと思っておりますので、その中で今後どういう方を対象にすべきなのかをよく議論していきたいと思っております。

それから、児童館については、もちろん近くの方、桜堤地区の方は行かれたことがあるかと思えますけれども、西の小金井市との境にあるので、全市域的には利用しづらい状況になっています。実態からしても、基本は小学生、それから未就学児となっておりますが、割合からすると、未就学児の利用が多いようで、どちらかという、この0123的な利用と同じような状況であれば、将来的に0123的な機能を強めてもいいのではないかと思っています。

児童館については、基本的に小学生等を相手にするのであれば、小学生の徒歩圏にあるべきではないかと私は思っております。中央に1つ大きいものということもあるかもしれませんが、そうするとなかなか子どもたちが自分たちでそこまで行くのは難しいと思います。そうすると、今現実的にあるのはあそべえであります。あそべえは児童館ではないのですが、各小学校に放課後の児童対策という中で、遊び場の空間が提供されておりますが、現在その遊び場の空間にもう少し児童館的な機能を付加できないか、それを1つ子どもたちの児童館的な拠点にと



<武蔵野プレイス外観（平成22年11月現在）>

さらに来年は、武蔵境駅の南口に武蔵野プレイスという大きな公共の文化複合施設が完成しますが、施設の中に、青少年の居場所に相当する、青少年のさまざまな施設を入れ込むことができます。年齢的には中高生を対象としたもので、少し上の世代ですけれども、そういう世代の施設になり得てくるのではないかと考えています。中高生ぐらいになれば、市内で1カ所程度で構わないかと思いますが、小学生あるいはそれ以下の子どもたちについては、なるべく徒歩圏にそういう施設をつくっていかねばと思っています。

4. 母親の声を聴くことについて

【ご意見】

西久保に住んでいる。8年前にひまわりママに入会し、お世話になり、もしこういうサポートがなければ、私は今ごろここにいないんじゃないかと思っている。

今小学校2年と1年の、年子の女の子の母親だが、下の子が慢性疾患を持っており、病院通いが多くて仕事ができず、仕方なく専業主婦になった。専業主婦の間にいろいろなお母さんと知り合いになって気付いたが、育児が楽しくて仕方ないというお母さんは1人もいなかった。実は皆さん大変で、抱き疲れて2階の窓から落としそうになった話とか、子どもと朝から晩まで一緒にいて、食事、トイレの世話から、家事もやって、旦那の世話までやって、気がおかしくなりそうだという話はいつも聞いていた。

そういうお母さんたちが、虐待に至らず、その手前で抑えられた理由は、やはり愚痴を聞いてもらったことだと思う。本当に大変で大変でという、お母さん同士情報交換して、聞いてあげて聞いてもらってという関係を続けて、それでだんだん収まってきたと思う。

お母さんはお母さんらしくなければ駄目だという社会の風潮が強いと思う。大変でも、愚痴を言うと母親失格と思われるのが不安、嫌だというお母さんは大勢いて、理性

で抑えている。小さい子のお母さんを虐待予備軍と思って、励ますのではなく話を聴いてくれる、そういう役割を持つところがあるといいと思う。

【市長】

子育ては、今やられているとすれば、すごく大変だと思われる方が多いんじゃないかと思っています。私など子育てを終えた世代としては、振り返れば、そういうこともあったけれども楽しか

ったと思っていますし、もう一度子育てしてみたいなと思いますが、地域での子育てに関するコミュニケーションが今の地域ではなかなか難しい状況になっているという課題があります。

かつては隣近所に多くのお子さんがいたので、子どものつながりで日常的に顔を合わせて、いろいろな情報交換をしたり、言い合ったり、ということがあったのですが、近所に同世代の子どもがいなくなると、そういう会話をする機会が少なくなっている現状が伝わってきております。

例えば、0123などは多くの方にご利用いただいているのですが、そういう場を求め



の方がすごく多くなっているんです。市内に未就学児は今6,000人います。毎年1,000人ずつ生まれるので6学年で6,000人いるんですけれども、幼稚園と保育園に通っていない子どものような割合があるかということをおっしゃると、幼稚園が一番多いです。6,000人の中で1,860人です。保育園が、認証保育所も含めて1,500人です。そうすると、保育園、幼稚園に通っていない子が2,400人。これを合計すると5,760人なんですが、要するに、保育園にも幼稚園にも通っていないお子さんがいっぱいいらっしゃることを認識すると同時に、さまざまな支援もしていかなければいけないと思っています。

その意味では、0123も1つの支援策ではないかと思えますし、子育てステーション制度といった話でも、そういうご家庭に向けての相談窓口、相談機能を増やしていきたいと思っています。

もう1つは、地域全体のコミュニティというのをこれからどう考えていくか。今のままでいいのかどうか。昔に戻れということではないのですが、もう少し地域のコミュニケーションを増やしていくにはどうしたらいいか。これは大きな武蔵野市の課題ではないかと思っております。今、第五期基本構想・長期計画の策定を始めましたけれども、そこでも議論の柱として今お願いしているところです。

【秋山理事長】

外に出られない状況にあるお母様もちろん多くいらっしゃって、そういう方はひまわりママをご利用になったりするんですけれども、特に産前産後支援ヘルプで、産後のお母様たちが一番求めているのが話を聴いてほしいということなんです。家事支援や上の子のお世話を依頼を受けますが、その仕事が終わっても、帰らないでちょっと座ってお茶でも飲んで一緒に話を聴いていただけませんかというふうに、この状況が新生児としていいのか悪いのか、お母さんはそこですごく悩んでいらっしゃるということがあります。



インターネットでも情報が氾濫していて、育児本も出ていて、標準ということをとてども気にされているお母さんたちが多いいけれども、そこで答えを自分では出せない。それを子育てを経験した私たちの「これでいいのよ」という、その一言を待っているというお母さんたちがとても多いので、話を聴いてあげられる、そこに同意してあげられる、共感してあげられるということのシステムをどこかでもう少しやっただけだと、市民はとても嬉しいと思います。保健センターとか、SOS支援センターとか、そういう制度はあると思いますけれども、何気ないお母さんたち、声を発しないお母さんたちがどのくらい救われるかということが大事だと思っています。

5. 子育て支援者への支援、特別支援教育、不登校児への訪問支援、短時間保育について

【ご意見】

境南町に住んでいる。1つ目は、地域のいろいろな場所で子育ての取り組みをされてい

る方たち、公の施設とかではなくて、町の中でそういう取り組みをされている方たちは、いろいろ困り事があると思うが、どういうところにもう少しサポートがあれば、もっと活発に活動を展開できるとか、人手が足りないのか、それともノウハウが足りないのか、それぞれ課題が違うのではないかと思った。ひまわりママさんを14年前に始められたときにいろいろな課題があったと思うが、これから子育てに関して何かやりたいと思っている方が、新しく始めようと思うときにいろいろな課題を抱えていらっしゃると思う。そういうことを丁寧に聞き取り調査みたいなことをして、そこに手当てをしていく。サポートしている人をサポートしていくような取り組みを市として是非していただきたいと思う。

2つ目に、障がいのある子どもさんについて、放課後、ご自分の住んでいる地域の学童保育に通えるように検討していくことはいいことだと思うが、逆に昼間の学校はご自分の住んでいる地域でなくて、別のところに通われなければならないという子どもさんがまだいらっしゃる。やはり住んでいる地域で学校に通えるということがいいのではないかと思うし、普通の子どもさんよりも、ご本人も親御さんも結構大変だと理解しているので、住んでいる地域で通えるように取り組みを進めていただけないか。

3つ目は、不登校の子どもさんについて、その課題は、周りと切れていくことと、学習がきちんと受けられないことだと思う。適応指導教室に参加することもプラスになると思うが、それができない子どもさんたちも多分いらっしゃるので、誰か家庭に出かけて行って、その子の勉強のサポートをすとか、その子と外との何らかのつながりをつくっていくような、そういう人がサポーターとしているといいのではないか。武蔵野市の場合には、心理学系の学科を持つ大学が幾つかあるので、そういうところの院生の方たちを活用できないか。

最後に、友達のお母さんに、何かしてほしいことありますかという話をしたところ、吉祥寺に買い物に行くときに2時間預かってくれるところがあるといいとのこと。2時間預かってもらおうと、その間に買い物を済ませて、お茶でも1杯飲んで、気持ちよく子どもを連れて帰れるというお話を伺った。吉祥寺の買い物だけでなく、普通に子育てしている方が2時間どこかで預かってもらおうとすぐリフレッシュできるのではないかと思うので、そういう仕組みがたくさんあるといい。

【市長】

地域の方にご協力いただき、親子広場などさまざまな事業を行っていますが、やはりいろいろな課題が挙がっていますので、それについては市でも集約しながらその解決に向けて検討しています。課題を集めていくって確かに必要ですね。他の施設での課題を活かした取り組みをいろいろな場所で行っていると思いますので、その辺は整理を進めていきたいと思います。

それから、武蔵野市は障がい児、いわゆる特別支援教育についても力を入れております。なるべく地域で、との声がありまして、その取り組みも方向としては正しいと思いますが、やはり専門的な機関に行かざるを得ない子もいらっしゃいます。そこで、そういう子もやはり地域でのかかわり合いが深まるような形で、例えば学童保育も一律の要件を撤廃いた

しました。地元に戻ってきて学童保育に通えるような道筋も今できています。それから、特別支援の通級学級という事業も、これは通常は地域の学校の普通クラスに行って、週に何回か特別の教育を受けるということで通っていくやり方もしていますので、なるべくその地域で暮らし、学べるようなことを是非つなげていきたいと思っております。

短時間の保育については、リフレッシュでも一時保育利用というのは可能です。保育園で行っておりますし、また、多分ひまわりママさんでも行っていると思っておりますので、それをもっと伝えていきたいと思っております。

【秋山理事長】

新しい取り組みに対するサポートということでは、ひまわりママを立ち上げる時には、本当に何のサポートもなく手探りでやっていたけれども、今は市役所の中に市民協働サロンというところがあって、そこにコーディネーターさんもいらっしゃるし、少し活動するときにはご提案ができるのではないかと考えています。



＜市民協働サロン＞

あと、駅型の一時保育施設ということは私たちも手探りで考えているところです。一時保育というと、多分ひまわりママで言えばテンミリオンハウスあおば、それから保育園の一時保育、認証保育園の一時保育ということになると思いますが、それ以外に駅のすぐ近くに保育ができる施設があればとのことで、まずはどこかデパートの一角でも借りてとか、吉祥寺のどこか一室を借りて、そこに一時預かりができないかと手探りで検討しています。どうしても吉祥寺というのが土地柄とても物件が高く、場所を求めることがとても難しいので、もしもデパートの保育施設でも、そこを借りながら保育者がそこに行って、その現場だけを見ていくことができないか、それであれば短時間、1時間、2時間でもできるのではないかと考えているんです。

なおかつ吉祥寺は商業都市ということで、武蔵野市民ではなくても都内から来るということで、その方たちも是非ターゲットにして、商業都市で保育も充実しているということで受け入れができないかということは常々考えているところです。

【市長】

不登校の実態は、今数字は把握してございませんが、やはり中学生が数としては多いです。私の記憶では、小学生は1けた前後だったと思いますが、多分中学生の不登校は40～50人いるでしょう。ただ、個別にいろいろな課題があるので、これは地域でというより、やはり学校のほうの取り組みに委ねるしかないか思っております。いろいろな状況、原因があるようなので、一概にひとくくりで、ではそれを地域で支えようというというのは難しい話だと認識しています。

6. 子育て世代同士がつながる仕組み作りについて

【ご意見】

以前杉並区に住んでいたが、今は緑町に住んでいる。武蔵野市は子育てに力を入れてい

て、特に箱形というか、こういう施設をたくさんつくっていて、すごく意識した行政をされていると感じている。ただ、ママパパ同士がつながってその地域として盛り上がっていくという横の連携をつくる力というところにおいては少し弱いと思う。

例えば、杉並区はご存じのとおり子育て応援券というのをやっていて、あれがなぜすごいかというと、結局あれで横同士のネットワークをつくってしまった。応援券が使えるところということで、区でまず冊子を作り、それが全部の家庭に配られると、あ、こういうことをやっているんだというところで、結局自分が興味あるところに出かけやすくなり、そこで同じ興味を持っている人たちにコンタクトして、自分もこういうことがやりたいんだというような形で、要するに、子育てに関して地域で盛り上がっていくという、そういう横のつながりができた。

それが冊子もホームページも、多分区が最初に運営していたのを、もうママに委託して大々的にやっている。子育てでいかに地域が盛り上がっていくかというので、イベントの紹介や報告レポートみたいなものも充実しており、とても活発である。

それに対して武蔵野市においては、市報がメインで、子育てイベントのホームページは市役所のページに出ているが、市の講座案内という形になってしまってもったいない。

あと、産後うつ、育児うつのママたちが求めているのは、専門家とお話することより、ママ同士の世間話とか、たわいもない話だと思う。なので、ママ同士が自然に集まる場所に、「こんなイベントをやったら一緒にやりませんか」というように案内できる場所を提供してもらえると、多分同じ悩み持っている人たちが集まれると思う。ママ同士をつなぐ仕組みを作れるきっかけのようなものがあればと思う。

今のママパパたちは結構多趣味で、おもちゃコンサルタントや絵本講師など、資格を自分で学んで、人に教えられるノウハウを持つ人もいる。ボランティアでいいと皆さん思っているので、そういう人たちに積極的に活動の場を提供し、例えばはらっぱでのイベント企画に提案できるような窓口があると、その地域でも盛り上がっていくと思う。

あと、例えばパパママがイベントを企画した際に、自分たちでチラシを配るには限界がある。そうすると、一応今武蔵野市では後援によって名前を貸してくださるという話だが、名前だけでなく、チラシを配ったり情報を発信する際、市の持つネットワークを活用できる仕組みや情報を提供してもらえると、相談できる場所がほしい。

【市長】

さまざまなこういう施設なり、そういう皆様方が利用できる機会をつくり、そこに集まった方がまた親しくなって仲間になって、次のステップのいろいろなイベントにつながっていくと私も思っていて、そのきっかけづくりは行政の役割ではないかと考えております。ただ、きっかけをつくった後については、地域の皆様方、お母さん、お父さん方の役割ではないかと思っていますので、後方支援になっていかざるを得ないというふうに思っています。

確かに、この施設でも児童館でもそうですが、いろいろな事業を継続的にやっていると、やはり新たな仲間ができています。その仲間が集まって何か新たなイベントをやろうというのも若干出てきているようなので、それも大切にしたいし、そういう情報も何か

まとめて発信していけば、また新たな方に参加いただけるのではないかと考えているので、その情報の受発信についてはもう少し研究したいと思っています。

ひまわりママさんもいろいろな多様な子育て施策を応援いただけていますが、武蔵野市も子ども協会という、いろいろな子育て支援施策を担っていこうというような財団もつくりましたので、そこが何かそういう情報を集約して発信していくような取り組みができたらいいいのではないかと思います。

それから、いろいろと自主企画していただいて、それをどうしたらいいかということについては、市役所の市民協働サロンにちょっとご相談いただくと、コーディネーターの方が、例えばああいう団体と一緒にやったらできるかもしれないとか、市役所のあそこの課に行けば何か補助できるかもしれないとか、そういうことも多分つなげていただけるので、ぜひ機会があったら、市役所の市民協働サロンをお訪ねいただきたいと思います。

7. 一時保育に対する補助、子育て応援券、子育て世帯への現金給付型支援について

【司 会】

事前にいただいたご意見を紹介したい。

1件目。働いていて、保育園に入れている方には補助があるのに、働いていなくて、ひまわりママなどに病気で子どもを預けるときは全く補助がないのは不公平に感じる。杉並や練馬などのように、子育て応援券等の検討をしていただけないか。

2件目。出産時の費用を30万ぐらい出しているが、出産というのは10カ月かかり、計画がある程度できるので、それより後どんどん子どもにお金がかかるので、一時金ではなく、節目節目にお金を出すような形はどうか。

【市 長】

国では子ども手当の支給が始まりましたが、基本的には、現金支給は国が行っていく、広く、不公平のないような形で行っていく。そして、自治体の役割は、それぞれの地域に応じたさまざまな施策を行っていくというような理解をしております。

杉並の場合はかなり財政的な豊かさもあって、武蔵野市も財政力豊かだと言われるのですが、財政制度面で、区部となかなか比較できないつらさがございます。では、武蔵野市が杉並区に見習って子育て応援券を出せるかという、なかなか難しいのではないかと考えておりますので、現金給付型の施策は大いに国のほうに頑張ってもらいたいと思っております。

出産手当について今、国民健康保険に加入している方はたしか42万円だったと思えますが、それも国のほうで議論いただいているんじゃないか思っております。具体的な施策について、保育園だとか、幼稚園、0123を含めて、また、それらに通っていないお子様に対するさまざまな施策については、市として、これからも充実させていきたいと思えます。

8. 集団回収による世代間交流について

【ご意見】

境南町に住んでいる。私は武蔵野市に来て10年ぐらいだが、今はクリーンむさしのを推進する会というごみの活動のグループで、主に私より先輩の方たちと一緒に活動している。

団体をつくって古新聞とか雑布とかアルミ缶を集めると、1キロ10円という補助金がいただける、集団回収という制度がある。これは週1回の資源回収よりも安くつくので、市役所のほうでは推進しているが、武蔵野ではわりとお年を召した方がやる活動みtainな雰囲気になっていると感じている。これから上の世代と次の世代と一緒に何かやっていくというときに、実はこの集団回収はいいのではないかと最近思う。新聞とか資源を出すということと一緒にやり、その補助金で何か一緒に交流のイベントやお食事会をすることができる。

まず、人と交流するには一緒に何か食べるのが一番と思うので、そういうことにうまく使ってもらえないかという提案をしたい。



<集団回収のぼり旗>

【市長】

集団回収を宣伝していただきましてありがとうございます。集団回収をしたほうがコスト的には実は安くなるんです。それで、地域でもそういう補助金を、いろいろなコミュニティの活動に利用いただいている団体も多々あります。その団体を今増やそうということも掲げておりますので、ぜひ地域で、多分やっていると思うので、参加していただいて、そこにいろいろなおじいちゃん、おばあちゃんもいるでしょうし、ぜひコミュニケーションを図っていただければと思います。

9. 小中学校の猛暑対策について

【ご意見】

今年の夏の猛暑は100年に一度の暑さということで、子どもが小学校に通っているんですが、公立小でももちろんエアコンもないし、水筒を持たせることについて学校に聞いたら駄目と言われ、夏の暑い日はもう死にそうな感じで帰ってくる。そういう夏の猛暑対策について、これから考えることはないのか。

【市長】

今年の夏は特に猛暑で、気象庁の観測以来、113年の中で一番気温が高かったそうです。学校につきましては、夏休み前後も、やはり同じような気温が続きまして、学校の現場からもさまざまに伝わってきました。私も幾つかの学校へ行ったり、あるいは先生に伺ったりしてその課題をお聞きして、やはり教育環境から考えると、我慢しろというような状況でない、クーラー設置に向けて、具体的にどういう設置の方法が可能なのかも今検討を始めています。

ただ、学校によっては、例えば電源設備が十分でなければ、すぐに設置もできません。他市の例を見ていると、ガスを利用した例もありますが、武蔵野の学校の場合、ガス暖房を使っているところが結構あるので、そうすると、そのガス暖房を冷房に利用できるんじ

やないかということもあります。

武蔵野市内の18の小中学校のうち、千川小学校だけは完全空調でございます。残りの17校については、図書室、特別教室、職員室などにはクーラーを設置しております。そういう図書室などを、猛暑日には、順番にやりくりしながら使ってきたなどという話もあります。17校で今、普通クラスとして使っている教室が200ちょっとなのですが、余裕教室も含めると400ぐらいの教室があり、その400の教室に冷房をつけるとすると、何億円という額がかかってしまいます。そのコストについては厳しく見ていかないといけないし、それからランニングコストです。つけたはいいけれども、その後ガス代、電気代がかかるということもあるので、それも今慎重に検討しておりますが、何とかつける方向で検討を進めていきたいと思っています。

水については現場の課題で、水筒の水の管理ができない、つまり子どもが毎日本当に新しいものを持ってきているかどうか、なかなか確認できないということです。随時水分補給をするように指導していますが、学校としてはきちんとした飲み水の確保という点では、水筒の問題は、現場では課題になっているそうです。

10. 多胎児の会について

【ご意見】

多胎児の話になるが、普通の1人の子育てをしているお母さんでも、やはり話を聞いてほしい、共感してほしい、相談する場所が必要、虐待をしてしまいそうになるという話をしていたが、それが掛ける2、掛ける3になったときのことを皆さんは想像したことがないと思う。多胎児の会を今2カ月に1回、市でやっているが、本当にありがたいことで、その2カ月に1回をととても楽しみにしているが、その日に子どもが1人体調を崩して行かなくなると、4カ月先になってしまう。

単胎児のママさんたちは週5日、0123をやっていて、行けば同じような環境にある誰かに会える、話を聞いてもらえる。毎日聞いてもらえる可能性がある。でも、多胎児のママというのは、0123に来て話をしても、やはり単胎児のママには分からない。分からなくても答えてくれるが、分からないなら、そんなに簡単に言わないでよと思うこともある。できれば、来年度から週に1回とは言わないが、せめて月に1回、多胎児の会を開いていただけると本当にありがたい。

そうすると、その月にも子どもが風邪で行けなくても、来月ある、来月何とかという気持ちにもなるし、本当言えば、2週間に1回やっていただけたら嬉しい。そのすごいピ



くふたごちゃん・みつごちゃんのつどい

(多胎児ひろば事業)の様子>

ンポイントの多胎児支援のために市が動いてくれるとは思っていないが、せめて月に1回多胎児の会を来年度からやっていただけたら嬉しい。

多胎児のママというのは、その双子、三つ子のママ同士にちょっと話を聞いてもらえると本当に救われる。同じ悩みを持つママたちと会える、双子、三つ子のママのためにちょっと動いていた

だけたら、本当に助かる。ママ同士で話ができるということがすごく重要なことなので、内容ではなく、お母さん同士が話をする機会をもっと作ってほしい。

【市長】

多分切実なご意見だと思います。大変なことは重々承知しておりますけれども、でも、3人いれば夢は3倍ですよ。だからぜひ頑張っていたきたいのですが、では、どうやったらどの程度の支援ができるのかについては、ちょっと現状を私が把握していない面もございますので、多胎児の皆様方の集いが今2カ月に一回ということなので、その利用状況だとか、参加の人数だとか、その内容だとか、もう1回課題を聞いて、いろいろ研究してみたいと思っています。



【秋山理事長】

お母さんのおっしゃることがとても分かって、場所を提供してくれるだけでもありがたい、月に一度、日程が決まって、優先的に、そのネットワークができれば、その場所が0123はらっぱでも市役所の会議室でもいいですし、安定した場所が提供できて、そのネットワークで日程を押さえられるというようなところの支援だけでもいいと思います。私たちが今多胎の会ということで関わっていますけれども、お母さんたちが、特に託児つきだったらもっといいというのは了解していますので、それは市のほうでもぜひ支援してもらいたいと思っています。

11. 子どもの居場所と大人の関わりについて

【ご意見】

子育てより少し先だが、小学校高学年あたりから、コミセンで午後7時ぐらいに父母会の集まりとかに行くと、もう暗い時間に、よくテーブルで集まっている子どもたちがいる。ただ黙ってゲームをやっている子どもたちとか、たまに盛り上がっていると思うとカードゲームをやっているような子どもたちである。実はそこに大人の姿は全然なくて、そういう子どもたちだけがいる。あの子たち大丈夫かなと前々から気になっている。

それで、先ほど不登校の話もあったが、実はあそべえが充実していただくのはありがたいと思っている。ほかの市の児童館では、学校に行けない子どもが児童館に行っているという現実もある。学校には近寄れないというので児童館に行っているが、武蔵野市ではそれが今コミセンになっているのではないかとと思われる。

そこで、子どもに関わる大人がちょっとあらわれると、随分よくなるのではないか思う。学芸大など近くにあるので、そういう人材を使って、子どもへの関わりを作るようなことを是非考えてほしい。

【市長】

コミセンによって、子どもたちへの対応が違うようです。あそべえではゲームは使えませんが、コミセンでもゲーム機の使用が大丈夫なところと、騒ぐから駄目ということで、原則禁止にしているところもあるようです。

子どもの遊びというのは、基本的にはあまり大人が介入すべきではないと思っております。

すが、そこにちらちらと行って、一言、二言何かアドバイスができることによって、また違う取り組みができるかもしれません。例えば、ゲームがすべて悪いと思いませんけれども、せっかくみんないるのに、それぞれゲームだけでやっているというのは変わったコミュニケーションだと思えますけれども、では、それを全員で何か一緒にやるような、そういうゲームのやり方をやったらとか、何かそういう指導があるのかもしれませんが。

ですので、先ほど冒頭に児童館の質問が出て、児童館機能はあそべえにと言っているのは、そういう専門的な知識、あるいはご指導もいただきながら、子どもたちの過ごす期間と場所を充実していきたいというふうに思っておりますので、今後そういう取り組みについては、専門家の先生にもご支援いただきながら進められればと思います。

12. ひまわりママへの支援について

【ご意見】

境南町に住んでいる。ひまわりママの協力員として活動している。地域の子育て支援の中で、ファミリーサポートと位置づけられるようなものとしてひまわりママがあると思うが、東京の最低賃金が821円になったが、それ以下の金額で皆動いており、安くていいとは思っていても、ほかの賃金の高いところに人が流れていってしまって、協力会員の確保が難しい現状がある。

緊急時、深夜、早朝、病児、そういったいろいろな対応をするためには延べ人数の確保が非常に大切である。しかし、保育課の管轄の一時保育に人材が流れていくような現状も長年続いている。

そのような状況の中で、丸々14年、消費税以外値上げを一切しないでやってきた。いつか市から補助金が出るのではないかという思いがあって、じっと耐えて頑張ってきたが、最低賃金を下回ってしまったこともあり、限界を感じている。

確かに補助金は少しいたいたり、場の提供をいただいたりして、大変感謝しているが、利用会員さんからも行政へのお願いということで、もっとひまわりママを支援してほしいということが言われている。よろしくお願ひしたい。

【市長】

いろいろな現場の課題は市に大いに出していただいて、そして、解決に向かっていきたいと思っています。

一般的には賃金というのは下がり続けています。最低賃金は上がっていますが、就業されている方はなかなか給与が上がらないという状況だということと、武蔵野市では全般的に今後予算は伸びないだろうという中で、いろいろな事業を今抱えておきまして、それで新たな要求を受けるためには、今までやっていたものを見直すことも必要です。限られた財源の中でいかに効率的に使っていくか、それから、皆様方の要望にこたえていくかというのが行政の役割だし、私の責任だというふうに思っております。

子育て支援策は私の大切な進むべき柱の1つでございますので、今日もたくさんご提案いただいたわけでございますので、お金がかかる問題はなかなか難しいのですが、なるべく応えられるように検討していきたいと思っています。

(4) 閉会のあいさつ

【NPO法人保育サービスひまわりママ 秋山 優子 理事長】

本日はたくさん貴重なご意見をいただき、どうもありがとうございました。これからもひまわりママの活動に皆さんの意見を反映しながら、お子様に寄り添いながら、お母様、お父様に寄り添いながら活動を進めたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。



【市長】

ありがとうございました。やはりいろいろな課題があります。新しい課題もどんどん起きているし、それは皆様方が日々生活しておりますので、日々の生活を通じて、新たな課題が出てくるのは当然だというふうに思っております。計画をつくったから、これだけやればいいということではありませんので、新たな課題をまたいただいて、子育てのしやすいまちに、少しでももっともっと前進するよう頑張ってもらいたいと思っております。



ちなみに、今日はさまざまなイベントがあります。ちょっと紹介いたします。シルバー人材センターでフェアをやっております。それから、障がい者の皆様方のあったかまつり、図書館前広場だとか、福祉作業所だとか、障害者総合センターでも行っております。それから一中フェスタ。一中の皆様方の公開授業的なことがございます。それから、私はこれから味スタに行きます。障がい者の子どもたちと一緒に、FC東京を応援しようということで、東京ライオンズクラブの皆様方がボランティアで案内いただきまして、一緒に応援しに行きます。ちなみに、陸上競技場では横河武蔵野がSAGAWAと戦いますので、サッカーに興味のある方は是非足を運んでいただきたいというふうに思っています。

秋は深まりつつございますが、さまざまなイベントが日々ございますので、ぜひ皆様方もお子様を連れて、地域のいろいろなイベントに参加いただきたいというふうに思っています。

2. 当日いただいたご意見と市の回答・対応方針 (※アンケートでいただいたご意見も含まれます)

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
1	虐待予防	小さい子のお母さんを虐待予備軍と思って、励ますのではなく話を聞いてくれる、そういう役割を持つところがあるといいと思う。	お母さん同士の交流、専門スタッフからの助言を得られる場としてある0123施設のほか、コミセン親子ひろば、あかちゃんのひろば等も、お母さん同士の情報交換の場として活用していただければと思います。また、子育てSOS支援センターでの相談も、「聴くこと」を重視しており、電話は夜10時まで受け付けています。なお、積極的には「出かけられない」「話せない」方々への支援についても今後検討していきたいと思えます。
2	子育て世代の情報交換	ママ同士が自然に集まる場所に、「こんなイベントをやったら一緒にやりませんか」というように案内できる場所を提供してもらえると、多分同じ悩み持っている人たちが集まれると思う。ママ同士をつなぐ仕組みを作れるきっかけのようなものがあればと思う。	0123施設では、情報交換掲示板を設けて、親同士が自由に情報交換できる場としています。他のひろばも事業においても、親同士をつなぐ仕組みづくりについて、今後検討してまいります。
3	子育て支援者育成	場所・ハコができれば、次は人の育成。地域の担い手、話を聴いてくれる人(若い人で余裕がある人は少ない)これに尽きます。支援を、これができないとハコが大ムダになります。	子育て支援者のスキルアップをはかる場として、年1回子育て支援講習会を実施しております。現在、来年度に向けて支援者の新たなサポート事業の実施及び人材登録の仕組みを検討しております。また子育て自主グループへのサポートを通しての地域の担い手支援も引き続き行ってまいります。
4	子育て支援の担い手	継続的に「ちょっとやってください」と言い続ける人がいないと、(子育て支援の)担い手はだんだん減っていってしまう。では、それができる人は誰かと言った時に、地域と地域だとなかなか言いづらいので、やはり保育士さんや、先生、学童の指導員、あそべえの館長とか、そういった方々がもう少し父母に対して働きかけができるようなきっかけがあるといいのではないかと。	現在、市では、地域子育て支援担当者を置き、保育園やコミュニティセンター等で赤ちゃんのひろばやコミセン親子ひろばなどを通して支援活動を行っております。また、地域で子育て支援を行っている福祉の会などにも定期的に伺い情報交換や支援をしております。子育て支援の分野だけでなく、地域活動の中心となる新たな担い手不足については、課題となっていると認識しています。継続的な行政からの声かけのみで、担い手不足を解消するのは難しいと考えますが、今後、コミュニティのあり方や地域活動の活性化についての議論とともに検討していく予定です。

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
5	子ども施設のイベント	<p>保育園だとお泊まり保育という、保育士さんと父母が子どもと一緒に泊まるというイベントがあった。それは子どもにとって良い体験だが、保育士さんと父母も、実はイベントを通じてつながって、その中で、子育ての楽しさを代々伝え、伝わった人たちが次の担い手になるというようなことがあった。こういったことがまた復活できないか。学童のお化け祭についても、復活できればと思う。</p>	<p>保育園のお泊り保育については、主催する保護者会や市職員の体制など課題があり、現在お泊り保育は実施していませんが、保護者と児童のふれあいを多くすることを目的として、親子ふれあい事業という形で実施しています。父母会と保育士のイベントとしてのかかわりとしては、夏祭りや保育園との共催行事などとなっております。今後も保護者の皆様とは、日頃の保育の中で関わっていくことを基本として、各種行事においても一定の基準の下で積極的に関わりをもてるよう考えております。</p> <p>学童クラブでは季節ごとに趣向を凝らした育成行事を実施しておりますが、今年度から、これらの行事の一部を土曜日の午前中に開催し、大勢の保護者の方にご参加いただいています。来年度以降も、このような体制を維持できるよう努めてまいります。</p>
6	父母会との交流	<p>父母会からの保育士、学童指導員さんへの働きかけは既に行っていますが、「勤務外」という事もあり、なかなか難儀しているのが現実です。父母との交流、「親育て」こそが必要とされているかと思えますので、ぜひ「業務として」父母との交流を捉えて頂けると有難いです。</p>	<p>父母会と保育士のイベントとしてのかかわりとしては、夏祭りや保育園との共催行事などとなっております。今後も保護者の皆様とは、日頃の保育の中で関わっていくことを基本として、各種行事においても一定の基準の下で積極的に関わりをもてるよう検討していきたいと思えます。</p> <p>学童クラブでは、季節ごとの育成行事や年4回開催する保護者会を、今年度から土曜日も含め保護者の方々がより参加しやすい日程で実施するよう心がけ、内容的にも保護者がより参加しやすいイベントを行うよう工夫しています。これらは全て業務として行っており、保護者との交流を促進するものであると考えています。</p>
7	子ども施策について	<p>子ども施策に関しては、(例えば)学童が学童のことだけ考えるというのではなく、もっと幅の広いことを考えなくてはならないと思うので、子ども家庭部長さんと父母との間の対話が直接持てるような場があるとありがたい。</p>	<p>子ども施策について協議するための機関として、保護者等のサービス利用者、事業主、子育て関係団体、教育関係者、公募市民、学識経験者等で構成された「子どもプラン推進地域協議会」と「小学生の放課後施策推進協議会」を設置しています。「子どもプラン推進地域協議会」では子ども施策全般に関わる事項について、「小学生の放課後施策推進協議会」では小学生の放課後や土曜日の過ごし方等について協議しています。どちらも横断的に子ども施策について協議しており、幅広い議論が行われています。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
8	子ども施策と高齢者施策の連携	<p>子どもは子ども、お年寄りはお年寄りというのではなくて、両方の施策がもう少しかみ合ってくれるといい。時間に余裕のない子育て世代と、時間的には余裕があるのではないかというお年寄りの方々がもっと連携できるようなことがあっていいと思う。</p> <p>子と老のかかわりの場を沢山もうけて欲しい。</p>	<p>子育て中の若い親世代とお年寄りとの交流については、テンミリオンハウスや特別養護老人ホームなどの高齢者福祉施設でにおいて、交流の機会を積極的に作っています。また、地域によっては、地域子ども館あそべえにおけるボランティア活動等で交流が図られています。今後も、ひろば事業や各種イベント等を実施している地域に対し、子育て世代とお年寄りとの交流、連携について、働きかけていきます。</p> <p>また、世代間交流事業として中学生と高齢者の交流を目的とした「高齢者パソコン教室」や、休み時間や給食を利用して児童と高齢者が交流する「境南小学校ふれあいサロン」を実施しています。</p>
9	子どもへの関わり	<p>(夜のコミセンで)ただ黙ってゲームをやっている子どもたちとか、たまに盛り上がっていると思うとカードゲームをやっているような子どもたちがいる。実はそこに大人の姿は全然なくて、そういう子どもたちだけがいる。あの子たち大丈夫かなと前々から気になっている。ほかの市の児童館では、学校に行けない子どもが児童館に行っているという現実もある。学校には近寄れないというので児童館に行っているが、武蔵野市ではそれが今コミセンになっているのではないかとと思われる。</p> <p>そこで、子どもに関わる大人がちょっとあらわれると、随分よくなるのではないかと思う。学芸大など近くにあるので、そういう人材を使って、子どもへの関わりを作るようなことを是非考えてほしい。</p>	<p>子どもの居場所としてコミュニティセンターのあり方については、常日頃からそれぞれのコミュニティ協議会や協議会代表者による研究連絡会等においても議論をしています。また、研究連絡会から青少年問題協議会へも出席しており、相互に情報交換を行なっております。</p> <p>今後も引き続き、コミュニティセンターをご利用の地域の皆様にも、子ども達に対して積極的に関っていただきたいと思っております。</p> <p>また、あそべえについては、遊びや相談について専門性を持った職員の配置について検討し、以下のような事業そのものの質の向上を図ります。①年齢に応じたより豊かな遊びの提供や各種プログラムの実施、②障害のある子どもや特別な配慮が必要な子ども等への対応、③子どもの悩み、相談への対応。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
10	子育て支援センター設置	<p>児童館というか、午前中は子ども、午後は小学生、中学生、夜は高校、大学生、全部利用できる大きな1つの建物を三鷹と共同して、真ん中あたりにつくつたらいいと思う。なかなか難しい話だと思うが、財政が苦しいといって建物が建たないなら、市をまたいで子育て支援センターをつくり、1つの場所に行けば全て相談できるといい。</p> <p>市役所に行って、どこに行ってください、どこに行ってくださいと回されるのは困るので、1カ所に行けば何事も相談できる、そういうところができると思う。</p>	<p>三鷹市と共同の子育て支援センターについては、一つの施設を乳幼児から大学生までが使用するためには、施設の設備や機能を各世代に合った形でそれぞれ整備する必要があり、非常に大きな建物が必要になります。また、隣接しているとはいえ、子育てに対する理念や施策の方向性、事業内容等が必ずしも一致していない両市が、共通の建物の中でそれぞれの業務を行うことは、現実的には難しいと考えています。</p> <p>子育て支援センターにおけるワンストップサービスについては、市をまたいでの機能は考えていませんが、第三次子どもプランの中でお示したとおり、子ども家庭支援センターを設置して、子育て家庭への総合的な支援を担っていく予定です。</p> <p>あそべえについては、遊びや相談について専門性を持った職員の配置について検討し、以下のような事業そのものの質の向上を図ります。①年齢に応じたより豊かな遊びの提供や各種プログラムの実施、②障害のある子どもや特別な配慮が必要な子ども等への対応、③子どもの悩み、相談への対応。</p> <p>中学生、高校生の居場所につきましては、平成23年7月にオープンする予定の「ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス」の機能の1つとして青少年活動支援機能があり、青少年の居場所として中高生世代の様々な交流や活動、情報交換を支援します。青少年の利用を想定したサウンドスタジオ等、多様な設備を検討しています。</p> <p>また、各地域においては、中高生に地域での役割や活動の場を与えることが、「居場所」づくりにつながるものと考えております。</p>
11	保育園入所	<p>保育園について相談した時に、私が入れる確率は0%とはっきり言われた。そして、まずは託児付きのところなどで働きなさいと。両親が働いていても、うちの場合は自営なので、マイナス10点、まず入所は無理でしょうと。ということは1人で育てなさいということか。</p>	<p>現在のように待機児童が非常に多い状況では、1歳児で保護者が求職中の場合は、残念ながら認可保育園に入れる可能性は非常に低くなると言わざるを得ません。また、認証保育所に預けるには経済的に厳しいという場合には、託児付の職場で働くという方法もあるという話をすることはあります。認可保育所の入所は、選考基準に基づいて実施しておりますので、保護者の状況により入所できない方がいるのが現状です。</p> <p>市では今後、認定こども園の新設、認可保育園の移転改築による定員増などを予定しているほか、認証保育所、家庭福祉員の増員などについて、引き続き検討し、待機児童の解消を図ってまいります。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
12	一時保育	子育てしている方が2時間どこかで預かってもらうとすごくリフレッシュできるのではないかと思うので、そういう仕組みがたくさんあるといい。	リフレッシュのための一時保育としては、公立保育園3園(南保育園、桜堤保育園、境南第2保育園)、民間保育園2園(西久保保育園、精華第二保育園)、こどもテンミリオンハウスあおばで実施しております。
13	一時保育施設	駅前一時短時間保育案はぜひ。コピスママキッズテラスの中などに設置してほしい。吉祥寺はママ世代に子供服や雑貨で人気のある街なので、商業活性化に利くのではと思います。	一時保育事業については、様々なニーズがあることは認識しております。今後、実施主体、実施場所、補助や支援のあり方等様々な面から研究したいと思います。 また、市では、今後の商業活性化策の1つとして、子育て世代にやさしい商店街作りを目指した検討を行っています。
14	一時保育補助	働いていて、保育園に入れている方には補助があるのに、働いていなくて、ひまわりママなどに病気で子どもを預けるときは全く補助がないのは不公平に感じる。	認可保育所は、保護者が就労しているなど、日中お子様の保育に欠ける場合にお預かりする施設で、児童福祉法で定められております。保育料については、保護者の所得に応じて徴収しており、補助はしておりません。認可保育所に入所できず、認証保育所などを利用されている方については、その利用料が所得に応じたものとなっておりますので、一定の補助を行っております。子どもが病気で、病児・病後児保育施設やその他のサービスを利用した場合は、働いているいないに関わらず、補助はしておりません。(生活保護世帯などは一部減免することがあります)

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
15	(多胎) 乳児連れの移動手段	<p>(子どもの遊び場などに行く際)三つ子という特殊事情から、そこまで行く移動手段がない。普通のタクシーだとバギーが入らないため乗れない。新しいタイプの少し大き目の車種だと乗れると言われ、その車種の手配をお願いしたところ、車種指定の手配はできないと断られた。そうすると、バギーで歩いて移動できる範囲だけに行動範囲が狭まってしまう。</p> <p>市で行っている車いすでも乗れるタクシーなどを見るが、それなら大きいバギーも乗れるだろうし、もし空いている時間があれば、3人抱えて乗るのは困難なので、チャイルドシートを付けて乳児連れが使えるようにしてほしい。</p> <p>レモンキャブを是非、お年寄りだけではなく、子育てにも利用して、少し台数を増やして早急にやっていただきたい。タクシー会社と一緒に相談してではなくて、是非行政からやっていただきたい。</p>	<p>今年度から年6回実施している「ふたごちゃん・みつごちゃんのつどい」(多胎児ひろば事業)については、多胎児を持つ親同士で気軽におしゃべりできる場として、毎回多数の方にご参加いただいております。今年度の実施状況を踏まえ、来年度に向けて場所(今年度は市役所会議室で実施)や時間帯、内容など、移動が困難な方々でもより参加者しやすくなるよう改善を図っていきたいと考えています。</p> <p>バギーで歩いて移動できる範囲で実施している事業としては、多胎児を持つ親子のみの対象ではありませんが、お住まいから近い場所で安心していらしていただける「ひろば」として、市内のコミュニティセンター11ヶ所で「コミセン親子ひろば」を実施しております。</p> <p>レモンキャブについては、道路運送法の自家用旅客運送(市町村運営有償運送)の登録をして運行しているため、利用対象者は、バスやタクシーなどの公共交通機関が利用できない者で、身体障害者、介護保険法の要介護・要支援認定を受けている者、その他肢体不自由、内部障害などを有する者に限定されています。残念ながら、現行の道路運送法の中では、子育て支援を目的とした自家用旅客運送は認められていません。</p> <p>タクシーの活用については、気軽に利用できるタクシー・サービスの実現に向けて、平成22年3月に策定した「武蔵野市地域公共交通総合連携計画」の中で下記の計画を立て、タクシー事業者と協働しながら、検討を進めております。いただいたご意見について、タクシー事業者に伝えてまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス交通の利用に不便を感じるが、レモンキャブやつながりの登録対象とならない高齢者などの方々を対象に、一定地域内定額運賃、会員高齢者の半額運賃など、地域の住民が利用しやすいタクシー・システムの構築をめざす。 ・利用方法や連絡先案内、共通番号設定によるPR等の利用促進策の実施。
16	多胎児支援	<p>ピンポイントの多胎児支援のために市が動いてくれるとは思っていないが、せめて月に1回多胎児の会を来年度からやっていただけたら嬉しい。</p>	<p>今年度よりスタートした「ふたごちゃん・みつごちゃんのつどい」(多胎児広場事業)の参加人数や内容、ニーズ、「NPO法人ひまわり」主催の「多胎児の会」、などの実施状況等をよく研究し、来年度の実施回数を決定したいと思います。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
17	子育て世帯への現金給付	<p>出産時の費用を30万ぐらい出しているが、出産というのは10カ月かかり、計画がある程度できるので、それより後どんどん子どもにお金がかかるので、一時金ではなく、節目節目にお金を出すような形はどうか。</p>	<p>子ども手当等の現金給付については国の役割と考えています。市では、すべての子どもたちの健やかな育ちを大切にするため、第三次子どもプランに基づき様々な施策を充実させています。現在、中学校修了前の子どもの医療費を無料化をして子育て家庭への支援を行っています。</p>
18	桜堤児童館	<p>桜堤児童館がなくなって、市内に0123のような児童館をつくっていくのか。なかなか具体的な話が見えてこない。</p>	<p>「第四期長期計画・調整計画」では、『桜堤児童館を含めた西部地域の子育て支援施設の再編を検討していく。』としており、また、本年2月に策定された「第三次子どもプラン武蔵野」では、『桜堤児童館の果たしている役割を0123施設、認定こども園境こども園(仮称)、地域子ども館あそべえ、武蔵野プレイスなどに移すことにより、全市的に発展的に展開していくことを検討』するとともに、児童館の建物については0123施設への転用を検討することとしております。今後、この方向で検討を進めていきます。</p>
19	特別支援教育	<p>(障がいのある子どもさんについて) 昼間の学校はご自分の住んでいる地域でなくて、別のところに通われなければならないという子どもさんがまだいらっしゃる。やはり住んでいる地域で学校に通えるということがいいのではないかと思うし、普通の子どもさんよりも、ご本人も親御さんも結構大変だと理解しているので、住んでいる地域で通えるように取り組みを進めていただけませんか。</p>	<p>障がいのある子どもたちが居住する地域の学校で学ぶためには、専門性の高い教員の配置、介助員や医療スタッフの配置、学校施設のバリアフリー化など様々な体制を整える必要があり、現行の学校教育制度の中で本市が取り組むには大変難しい課題であると認識しています。</p> <p>市では、特別支援教育推進計画に基づき、特別支援学級を設置するほか、通常学級で学ぶ障害のある子どもたちを指導・支援するため、学校支援人材の派遣、通級指導学級や特別支援教室の整備を進めています。</p> <p>今後も、国や東京都の制度改革の動向などを踏まえつつ、障がいのある児童・生徒への支援を図ってまいります。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
20	不登校児訪問支援	<p>不登校の子どもさんについて、その課題は、周りと切れていくことと、学習がきちんと受けられないことだと思う。適応指導教室に参加することもプラスになると思うが、それができない子どもさんたちも多分いらっしゃるのでは、誰か家庭に出かけていって、その子の勉強のサポートをすとか、その子と外との何らかのつながりをつくっていくような、そういう人がサポーターとしていいのではないかと。武蔵野市の場合には、心理学系の学科を持つ大学が幾つかあるので、そういうところの院生の方たちを活用できないか。</p>	<p>市では、適応指導教室(チャレンジルーム)の指導員の中で、臨床心理士の資格を持った指導員が、「訪問相談」という名称で、ご家庭の希望により家庭訪問を行い、面談をしたり、学習のサポートなどを実施しています。</p>
21	子育て応援券	<p>杉並や練馬などのように、子育て応援券等の検討はしていただけないか。</p>	<p>杉並区の子育て応援券は、子どもの預かりサービスや親サポートプログラム、親子参加イベント、予防接種等々の有料子育て支援サービスに利用できる券で、未就学児のいる家庭に配布しているものです。子育てに関する経済支援策は、本来、全国一律に実施されるべきで、自治体が単独で実施するには、事業の内容や財政面などを検証したうえで実施する必要があります。国や東京都、他区市の少子化対策や子育て支援施策の今後の状況を見据え、当市の他の子育て支援施策ともあわせて総合的に研究していきます。</p> <p>練馬区の子育てスタート応援券は、育児支援ヘルパー事業とファミリーサポート事業について、各4時間無料で利用できる券を、赤ちゃんが生まれた家庭に配布しているものです。子育て支援制度の周知を目的とするもので、当市においても今後研究していきたいと考えています。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
22	学校の猛暑対策	<p>公立小でももちろんエアコンもないし、水筒を持たせられていることについて学校に聞いたら駄目と言われ、夏の暑い日はもう死にそうな感じで帰ってくる。そういう夏の猛暑対策というのはこれから考えることはないのか。</p>	<p>小中学校の普通教室や一部の特別教室について、児童・生徒の学習環境を整備し、児童・生徒・教職員の健康を保障するという観点から、平成23年度中に空調設備を設置します。</p> <p>また、小学校の猛暑対策について、児童には、体育の授業を中心にこまめに水分を補給するよう指導しています。また、小学校の水筒の持ち込みについては、児童が水筒を持ち帰らず、翌日、翌々日の中身を口に入れてしまう恐れがあることや常に水筒が安全に確保できる保管場所に留意しなくてはならないことなどから、禁止している学校もあります。</p> <p>しかしながら、この夏の猛暑に対しては、水筒を用意するように家庭に通知文を出した学校もあります。個別のケースもあるので、在籍している学校にご相談くださいようお願いいたします。</p>
23	テンミリオンハウス	<p>テンミリオンハウス花時計を利用している。祖父母と会う機会が少ないので、祖父母世代、高齢者の方とふれあえる花時計、とても助かります。テンミリオンハウスは高齢者向のところがほとんどですので、花時計のように高齢者と乳幼児が交流できる施設がもっとあるといいと思います。</p>	<p>テンミリオンハウスは、現在高齢者向け7箇所、こども向けが1箇所あります。花時計は世代間交流が大きな特色となっていますが、他のテンミリオンハウスにおいても、保育園児や小中学生との交流の機会を増やしているところです。</p>
24	小児医療情報	<p>小児科医が東町にはないので、すごく困るという声を子育て中のお母さんからよく聞きます。杉並区には東町の近くであるのならば、情報を知らせてほしい。</p>	<p>医療機関に関する情報については、「武蔵野市医師会」ホームページhttp://www.musashino-med.or.jp/index.htmlまたは「東京都医療機関案内サービスひまわり」tel 03-5272-0303(自動応答)、fax 03-5285-8080(聴覚・言語障害者向け)、ホームページhttp://www.himawari.metro.tokyo.jp/qq/qq13tomnlt.aspをご活用ください。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
25	集団回収	<p>これから上の世代と次の世代が一緒に何かやっていくというときに、集団回収はいいのではないかと最近思う。新聞とか資源を出すということと一緒にやり、その補助金で何か一緒に交流のイベントやお食事会をすることができる。まず、人と交流するには一緒に何か食べるのが一番と思うので、そういうことにうまく使ってもらいたくないかという提案をしたい。</p>	<p>集団回収を行うことにより、地域や団体が一体となり取り組むことで、コミュニティの輪が広がります。回収量に応じて市から団体に補助金が交付されるので、補助金を団体の活動資金に活用できます。地域でもこの補助金をいろいろなコミュニティの活動に利用いただいている団体も多々あります。市ではその団体を増やそうということを掲げていますので、ぜひ地域で、ご提案の内容等含めコミュニケーションを図っていただければと思います。</p>
26	子育て世代の活動支援	<p>今のママパパたちは結構多趣味で、おもちコンサルタントや絵本講師など、資格を自分で学んで、人に教えられるノウハウを持つ人もいます。ボランティアでいいと皆さん思っているので、そういう人たちに積極的に活動の場を提供し、例えばはらっぱでのイベント企画に提案できるような窓口があると、その地域でも盛り上がっていきけると思う。</p> <p>例えばパパママがイベントを企画した際に、自分たちでチラシを配るには限界がある。そうすると、一応今武蔵野市では後援によって名前を貸して下さるという話だが、名前だけでなく、チラシを配ったり情報を発信する際、市の持つネットワークを活用できる仕組みや情報を提供してもらえらる窓口、相談できる場所がほしい。</p>	<p>武蔵野市立0123吉祥寺と武蔵野市立0123はらっぱにおいて、「0123×地域」と銘打ち、地域の個人、団体から提案された自主的な子育て支援事業を地域と協働で実施しております。</p> <p>チラシの配布など、市民活動情報の発信については、市民協働サロンにおいて、特定の宗教や政治に偏っておらず公益に資する内容であれば、市民協働サロン登録団体に限らず、ポスターの掲示やちらしの配置を受け付けています。</p> <p>また、平成23年7月に開館予定の武蔵野プレイス3階の市民活動フロアでも、市民活動支援の一環として、チラシ配置やポスター掲示など情報の収発信のほか、市民活動に関する相談、市民活動団体同士のコーディネート等も行う予定です。</p>
27	子育て支援者の支援	<p>(子育ての)サポートしている人をサポートしていくような取り組みを市として是非していただきたいと思う。</p>	<p>子育て支援者のスキルアップをはかる場として、年1回子育て支援講習会を実施しています。現在、来年度に向けて支援者の新たなサポート事業の実施及び人材登録の仕組みを検討しております。</p> <p>市では、市民活動を支援するため、平成23年7月に開館予定の武蔵野プレイス3階に、現在の市民協働サロンの6～7倍の面積の市民活動フロアを設置します。本フロアでは、市民活動情報の収発信のほか、市民活動に関する相談、市民活動団体同士のコーディネート等も行う予定です。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
28	ひまわりママへの支援	<p>(ひまわりママの)協力会員の確保が難しい現状がある。いろいろな対応をするためには延べ人数の確保が非常に大切である。しかし、保育課の管轄の一時保育に人材が流れていくような現状も長年続いている。そのような状況の中で、丸々14年、消費税以外値上げを一切しないやってきた。いつか市から補助金が出るのではないかという思いがあつて、じっと耐えて頑張ってきたが、最低賃金を下回ってしまったこともあり、限界を感じている。確かに補助金は少しいたいたり、場の提供をいただいたりして、大変感謝しているが、もっとひまわりママを支援してほしい。</p>	<p>「NPO法人保育サービスひまわりママ」については、平成8年から活動を始め、ファミリーサポートの事業をはじめ、こどもテンミリオンハウスあおば、病後児保育室ラポールの運営など、市民ニーズにきめ細かく対応し、市の子育て支援事業に多大な協力をいただいていると認識しております。また現在、市から団体に対して補助を行っております。</p> <p>市では、多くの団体の様々な活動に対して補助を行っておりますが、今後補助のあり方については、十分検討していく必要があると考えております。</p>
29	広報	<p>武蔵野市においては、(イベントのPRは)市報がメインで、子育てイベントのホームページは市役所のページに出ているが、市の講座案内という形になってしまっていてもったいない。</p>	<p>子育て支援情報(イベントを含む)のHPへの掲載方法については、今後、よりわかりやすい掲載方法を研究、検討し、利用者の立場に立った、わかりやすく、使いやすいホームページでの情報提供に努めていきます。</p>
30	タウンミーティングのPR	<p>今回この場に、0123に毎日来ているお母さんたちが全然参加していないのに驚いた。託児つきということをもっとアピールして、今現在子育てしている私たちの同年代のお母さんたちにもっと来てもらえたら、この会ももっと良くなったと思う。</p> <p>せっかく0123はらっぱで開催するなら、休館日ではない方が遊びに来た当事者の声をもっと聞かれたのではないかな。</p> <p>時間、人数によりますが、参加者全員に一言発言してもらってもいいのではないかなと思います。</p> <p>今回のテーマでのミーティングが多くもたれることを希望します。</p>	<p>タウンミーティングの会場で回答したのものも含めて、各回ごとに報告書を作成し、いただいたご意見については、市の対応方針という形でお答えしています。企画・運営・周知の方法については、皆様のご意見も伺いながら、今後、検討してまいります。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
31	小学校 空き 教室 利用	<p>小学校の空き教室に(幼稚園・保育園どこにもいない子ども全部含めて)5歳、6歳の子ども達の教室をもうけてはどうか。小学校に慣れる事ができるのではないか。</p>	<p>現在、小学校の教室のなかで、学級が指定されていない教室がありますが、これらの教室についても、少人数指導やグループ学習など様々な使い方をしているため、これらの教室に園児等の教室を設けることは難しいと考えています。</p> <p>小学校に慣れるという点では、入学を予定している園児等に対しては学校説明会の際に学校を案内したり、交流会を開くなどの試みをしている小学校も多数ございます。今後もそのような機会の充実を図っていきます。</p>

3. アンケートでいただいた感想

※アンケートの自由回答欄でいただいた感想のうち、主なものを掲載しています。

1	0123利用者の参加がほぼなかったのが残念。市長に直に意見できたので、少しでも届いて変わっていけば嬉しいです。
2	せっかく0123はらっぱで開催するなら、休館日ではない方が遊びに来た当事者の声をもっと聞かれたのではないかと。
3	子どもを見てくださる方がたくさんいて下さって、参加し易かったです。実際に小さなお子さんの居る若い親世代の人の参加が少なくて、せっかくの機会なのに勿体なかったです。
4	子育て中の方が少ないので残念でした。
5	今回のテーマでのミーティングが多くもたれることを希望します。
6	普段感じている疑問を、直接市長に伺えたのがよかった。市役所に伺っても、担当をこえた話はできませんし、担当者の範囲での回答になってしまうので、とてもよかった。
7	初めて参加しましたが、日頃なかなか聞けない話を聞いて良かったです。市民の生の声を市政に届けられるようにこういった機会が多くあるといいと思います。普段聞けない事も聞いて良かったです。

TOPICS

1

第三次子どもプラン武蔵野を策定しました



市では第四期長期計画・調整計画の実施計画として、また、次世代育成支援対策推進法（平成15年7月施行）に基づく後期市町村行動計画として、第三次子どもプラン武蔵野を策定しました。本計画の期間は、平成22年度から26年度までの5カ年です。

平成20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
第四期長期計画・調整計画				第五期長期計画			
第二次子どもプラン武蔵野		第三次子どもプラン武蔵野				次期	

計画の理念

**すべての子どもたちの
健やかな育ちを大切にします**

子どもの幸せを第一に考え、子どもの利益が最大限に尊重されるよう子ども自身のニーズを重視した施策を展開し、すべての子どもたちの健やかな育ちを大切にします。

**家庭の子育て力を
高めることを支援します**

子育てしやすい環境を整備するとともに、親子や家族の絆が深められるような支援を実施し、すべての家庭が安心して子育てができ、家族がふれあい、親意識が育まれるような取組を推進します。

**地域社会全体で
子育てを支援します**

行政、地域、NPO、民間企業など、地域の様々な人的・物的資源がそれぞれの役割を担いながら連携と協力をもって子どもの健全な育成に関わっていただけるような施策を推進します。また、働き方を見直し、子育てを社会全体で支援する視点にたつて取組を進めます。

**多様な学びの場を通した
体験を重視します**

生活体験・自然体験・社会体験といった体験の場をはじめとした、多様な学びの場を充実させるような施策を展開します。

基本目標	施策
1 子育て支援施策の総合的推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会全体で取組む子育て支援の構築 ● 待機児童の解消と保育・幼児教育の質の向上 ● 子育て家庭への支援 ● 働き方の見直しの啓発 ● 第三次子どもプラン武蔵野の推進
2 親子のふれあいと家庭への啓発	<ul style="list-style-type: none"> ● 体験事業を通した親子のふれあいの推進 ● 親育ちのための環境の充実
3 子育て支援施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て支援施設の整備
4 学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 知性を磨き、個性を伸ばす教育の推進 ● 豊かな心や感性を育む教育の推進 ● 健やかな体を育む教育の推進 ● 現代社会の諸課題に対応する教育の推進 ● 質の高い学びを保障する学校体制の充実 ● 質の高い学びを支える教育施設・設備の充実 ● 学校と地域が一体となり取組む教育の推進
5 青少年施策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 青少年育成施策の拡充 ● 自然体験事業の拡充 ● 青少年育成環境の整備 ● 青少年の国際交流の促進 ● 生涯学習機会の拡充 ● 図書館サービスの充実 ● スポーツ施策の多角的な検討
6 出産や子どもの健康な発育を支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 食から始める健康づくりの推進 ● 母子保健事業の充実 ● 障害のある子どもへの支援
7 子どもにやさしいまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全なまちづくりの推進 ● 総合的な道路交通環境の整備展開 ● 市民と協働でつくる緑化空間の整備 ● ユニバーサルデザインの視点の展開

優先的に取り組みます! 9項目の重点的取り組み

第三次子どもプラン武蔵野では、次の9項目について計画期間中に重点的に取り組みます。

子ども家庭支援センターの設置及び登録制による子育てステーション制度の導入

- 子ども家庭支援センターの設置
- 登録制による子育てステーション制度の導入



1

保育園入所待機児童解消に向けた取組



今日には戻れない

- 認可保育所、認証保育所等の整備
- 様々な主体による多様な保育事業の展開
- 保育ママ制度の拡充
- 幼稚園などでの預かり保育の推進
- 安心して復職できるための入所制度の検討

2

認可保育所における保育の質の維持・向上と効率的運営の取組

- 武蔵野市保育の質の向上のための取組(アクションプログラム)
- 公立保育園の運営形態の見直し



3

西部地域の子育て支援施設の再編



乾杯!

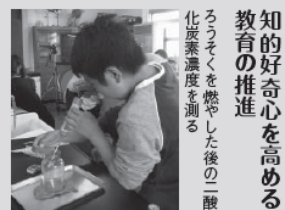
- 桜堤児童館の役割を全市的に展開
- 0123施設の新設

4

学びの基盤づくり

- 授業改善(基礎的・基本的な知識・技能の習得)の推進
- 少人数教育の推進
- 家庭と連携した学習習慣・生活習慣の確立
- 教員研修の充実
- 教育センターの検討
- 特別支援教室の充実
- ICT機器を活用した教育の推進
- 教員用PCネットワークの構築

5



知的
好奇心を
高める
教育的
推進
ろうそくを燃やした後の二酸化炭素濃度を測る

- 授業改善(思考力・判断力・表現力を育む指導)の推進
- 理科専科教員の小学校全校配置
- 市内大学・企業との連携ネットワークづくり
- セカンドスクールの充実
- 図書館など、市内施設の活用

6

地域と協働した学校づくり

- 開かれた学校づくり協議会、代表者会の充実
- 学校支援ネットワークの体制の研究
- 情報発信の充実
- 地域と連携した安全・安心の取組の推進



7

地域子ども館あそべえと学童クラブの連携の推進と運営主体の一体化についての研究



マンカラで真剣勝負

- 「小学生の放課後施設推進協議会(仮称)」の設置
- あそべえと学童クラブの連携の強化
- あそべえと学童クラブの運営主体の一体化についての研究

8

地域における青少年育成支援と地域青少年リーダー制度の整備

- 青少年育成活動への参画を促す地域活動への支援
- 地域青少年リーダー制度の整備



9

問い合わせ

子ども家庭課 ☎ 60-1851

第34回 市民と市長の

タウンミーティング

市民と市長が意見交換を行います。
あなたの子育て話をお聞かせください。

テーマ

「地域で育てよう！武蔵野の子ども」

開催日時

10月23日(土)10:30~12:00

申込不要です。当日、直接会場へお越しください。

会場

0123はらっぱ

住所：武蔵野市八幡町1-3-24

お車でのご来場は、ご遠慮ください。



託児無料

対象：1歳以上未就学児

10月20日までに市民協働推進課までお申し込みください。
先着順に15名まで受け付け致します。
1歳未満児は保護者のおひざの上で参加可能です。

主催

特定非営利活動法人
保育サービス ひまわりママ
武蔵野市

協力

武蔵野市
子ども協会

問い合わせ

武蔵野市役所市民協働推進課(2階)
TEL 0422-60-1829
FAX 0422-51-2000



第34回 市民と市長のタウンミーティング

「地域で育てよう！武蔵野の子ども」



より快適な子育て環境について

地域ができる具体的な策は何だろうか？

親子のふれあい・家庭の子育て力を高めるために



地域の人々と子どもの交流について

武蔵野らしい子育て・世代間交流とは？

子育て家庭と地域のつながりを

深めるためには



当日参加できない方で、上記のことについて、市長にご意見・ご要望のある方は、下記枠内にお書きになり、市役所(2階)市民協働推進課、または各市政センターにお届けいただくか、FAXで市民協働推進課(0422-51-2000)にお送りください。

第34回

テーマ別

市民と市長のタウンミーティング
～地域で育てよう！武蔵野の子ども～
報告書

発行 平成22年12月

武蔵野市 企画政策室 市民協働推進課

武蔵野市緑町2丁目2番28号

電話(0422)60-1829 (直通)